植物防疫ニュース（速報Ｎｏ．２９）　　平成２６年２月２４日
栃木県農業環境指導センター

トマト灰色かび病の発生増加が懸念されます！

２月３日～１２日に行った巡回調査では、灰色かび病の発生は平年に比べやや少ない状況でした。しかし、その後の降雪により、施設内が多湿となっているほ場が多く、本病の発生に好適な状況になっています。また、葉先枯れ（写真１）等の発生が見られているほ場では、枯れた部位から本病が発生しやすくなるため、より注意が必要です。

本病は、多発すると防除が困難となります。予防と初期防除を心がけましょう。

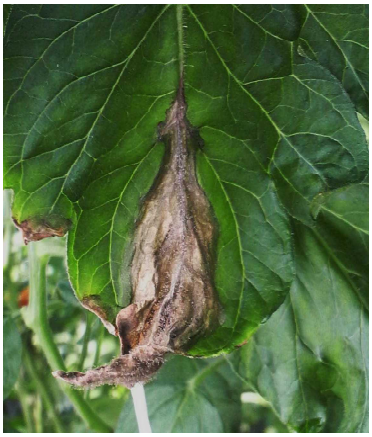
写真１　葉先枯れ

写真２　発病した茎

写真３　発病果実

【防除対策】

・施設内が多湿にならないよう、換気やかん水に注意する。
・暖房機や循環扇の利用により、植物体表面への結露を防止し、施設内の湿度低下に努める。
・発病葉、発病果、花弁、葉先枯れ等はすみやかに除去し、ほ場外で処分する。
・薬剤散布は予防主体に行い、化学農薬を使用する際には、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、ローテーション散布を心がける。
・ボトキラー水和剤〈野菜類〉は発病前～発病初期の利用とする。また、低温条件では効果が出にくいので、温度管理に注意する。
・曇雨天時は液剤の使用を控え、くん煙剤等を使用すると過湿防止に有効である。

表　トマト灰色かび病に登録のある主な薬剤（平成 26 年 2 月 20 日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成　分	薬剤系統名	成分の 総使用回数
フルピカフロアブル	2000～3000倍	収穫前日まで	4回以内	メパニピリム	アニリノピリミジン系	4回以内
ファンベル顆粒水和剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	イミノクタジン	グアニジン系	3回以内
				ピリベンカルブ	QoI剤	3回以内
ダイマジン	1500倍	収穫前日まで	3回以内	イミノクタジン	グアニジン系	3回以内
				フェンヘキサミド	ヒドロキシアニリド系	3回以内
ポリオキシンAL水溶剤	5000倍	収穫前日まで	3回以内	ポリオキシン	抗生物質	3回以内
アフェットフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ペンチオピラド	その他	3回以内
カンタスドライフロアブル	1000～1500倍	収穫前日まで	3回以内	ボスカリド	その他	3回以内
セイビアーフロアブル20	1000～1500倍	収穫前日まで	3回以内	フルジオキソニル	その他	4回以内*1
ボトキラー水和剤 〈野菜類〉	1000倍 *2	発病前～ 発病初期	–	バチルス　ズブチリス	微生物農薬	–
ロブラールくん煙剤	*3	収穫前日まで	3回以内	イプロジオン	ジカルボキシイミド系	4回以内*4

*1　種子への処理は1回以内、散布は3回以内
*2　ﾀﾞｸﾄ内投入をする場合：10～15g/10a/日
*3　くん煙室容積300～400㎥(高さ2m、床面積150～200㎡)当り100g(50g×2個)
*4　種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内

詳細は、農業環境指導センター（http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html ）までお問合せ下さい。
病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」でも発信中です。
（TEL　０２８－６２６－３０８６）